

※「わや便り準備1号」に掲載したものを再掲しました。

親の思い

理事長 伊藤久子

私の息子は重度の重複障がい者です。息子に障がいがあるとわかったとき、私の願いは、「この子よりも1日だけ長く生きたい。」でした。

親が子どもよりも長く生きたいと思うことは、普通考えられないことですが・・・障がいがある子の親ほど、この願いが強いと思います。

10数年前と比べると、福祉もかなり進みましたが、まだ親が安心して、子どもをおいていける世の中にはなっていません。この地域にも、何か所かのグループホームができましたが、重度の障がい者を受け入れるところまでいっていないのが現状です。

「重度の障がい者も生まれ育ったこの地域で、一生幸せに暮らしていける家、家族」を作りたい。という思いで、親どうしが集まって話したところ、それならば、自分たちで作るしかないということになりました。

幸い、親だけでなく、福祉関係の人たちやボランティア、住民有志の皆様との協力を得ることができ、障がい者グループホーム「和家」の建設工事につながりました。

開設後は、家庭的な環境で暮らすことができ、趣味や余暇活動をとおして、生きがいを感じ、社会参加ができるようなホームにしたいと思います。

和家をきっかけとして、障がい者をはじめ、様々な人たちが、その人らしく幸せに暮らすことができるようなサポートをしたいと思います。

親亡き後も、安心して暮らせるような世の中になってほしいです。

2018年11月記

